

第33回技術セミナー

南海トラフ — 巨大地震への備え

梅田サウスホール

2023.2.21

# 首都直下と南海トラフに備えて

兵庫県立大学

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構

五百旗頭 真

# はじめに 大災害の時代 — 地殻変動と気候変動の激化

## 1 首都直下 — 関東大震災100年

(1) 燃えやすい日本の都市 — 大震災の10万5千人の死者中9万人は焼死

cf 明暦大火(1657)

(2) 次の首都直下 — 相模トラフ型(1923 M8)より直下断層型(神戸1995 M7.3)

(3) 新事態 — 耐震・耐火の進行の一方、ドーナツ型木造住宅群の残存

- ・人口の過度な集中による社会災害(cf 帰宅困難者の大群)

- ・高層マンションの林立 — 停電により、自宅に戻れず → トイレを含む備蓄の要

## 2 大津波 — 東日本から南海トラフへ

(1) 東日本 — ・M9の巨大地震津波 / 2万2千人の犠牲 (cf 明治三陸津波)

- ・復興構想会議、復興庁、復興税
- ・高台移転、グループ補助金 / すべて国費で、より安全なまち

(2) 南海トラフ — ・半割れ型 (安政 1854、昭和 1944) と一気全面型 (宝永 1707)

- ・高知、和歌山などで沿岸高速道路の整備 (cf 三陸縦貫道路)
- ・被災域・被災人口の巨大 — 東日本のような支援不可能
- ・統合司令部の不在 / タテ割行政を超えよ / 発生前から全体的準備を
- ・首都直下に備え、バックアップ二元化を

おわりに 想定を裏切る大災害